

高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成30年度

高志の国文学館 年報

平成30年度

目 次

I 平成30年度のあゆみ

平成30年度のあゆみ	4
------------	---

II 事業内容

1 展示活動	6
2 資料概況	20
3 教育・普及事業	21
4 高志の国文学館友の会	32

III 管理・運営

1 利用状況	34
2 施設の概要	36
3 機構	37
4 組織	38

IV 資料

沿革	40
----	----

V 関係法令

関係法令	44
------	----

I 平成30年度のあゆみ

平成30年度 高志の国文学館のあゆみ

年 月 日	事 項
平成30年 3月18日	大伴家持生誕1300年記念企画展 「歌人 大伴家持—現代と響き合う詩心」(5月21日まで)
4月8日	観桜の集い2018
5月13日	文学講座(大学連携シリーズ)(7月14日まで 全4回)
5月14日	入館者70万人達成
6月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」(7月30日まで)
6月17日	文芸サロン(主催:日本ペンクラブ富山の会)(平成31年3月17日まで 全4回)
7月6日	クローズアップコーナー 明治150年関連企画「明治の作家たち—富山文学の黎明」展(12月24日まで)
7月10日	平成の越中万葉—中学生短歌講座—(9月21日まで 全4回)
7月11日	高校生のための平成万葉塾(10月23日まで 全6回)
7月22日	平成30年度「高志プロジェクト」認定証交付式
7月28日	大伴家持生誕1300年記念式典(第1回大伴家持文学賞・第1回高志の国詩歌賞贈呈式)
7月29日	読書感想文サポート講座
8月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」(10月8日まで)
8月12日	アフレコチャレンジ教室(第5回サブカルチャー講座)
8月25日	イラスト体験教室(第5回サブカルチャー講座)
9月6日	ミュージアムコンサート
9月15日	文学講座(巨人の物語をひもとくシリーズ)(12月1日まで 全4回)
9月23日	観月の集い2018
9月29日	朗読と音楽の夕べ(11月23日まで 全5回)
10月7日	文学講座(ゆかりの文学者シリーズ)(12月15日まで 全4回)
10月13日	西村まさ彦プロデュース 大伴家持生誕1300年記念 「和歌と朗読を楽しみ、童謡を歌い 日本語の美しさを知る集い<小学生編>」
10月17日	生誕100年記念特別展 「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」(12月17日まで)
10月24日	「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展示(12月3日まで)(主催:富山県教育委員会)
11月10日	とやま室内楽フェスティバル(主催:(公財)富山県文化振興財団)
12月9日	大伴家持生誕1300年記念事業・講演と音楽の集い「家持のうたごえ—美術と音楽の交響」
12月19日	特別コレクション室「生誕100年記念・堀田善衛の書斎」展(平成31年3月11日まで)
12月22日	書道パフォーマンス(平成31年3月9日含め 全2回)
平成31年 1月6日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」(3月4日まで)
同日	クローズアップコーナー「富山の同人雑誌—戦後から現在まで—」展(6月24日まで)
1月26日	第5回 高校生による朗読会
2月10日	炉辺暖話(3月21日まで 全3回)
3月3日	中西進氏(高志の国文学館館長)特別講演会 (高志の国文学館友の会、富山県[立山博物館]友の会、富山県水墨美術館友の会、富山県美友の会 共催)
3月13日	特別コレクション室「堀田善衛の詩—館蔵品より」展(6月24日まで)
3月17日	大伴家持生誕1300年記念企画展 「家持発見—響き合う詩歌と絵画」(5月13日まで)
3月24日	大伴家持生誕1300年記念事業 越中万葉・首都圏シンポジウム 「詩をよむ歓び—家持の歌をめぐる」

II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。平成29年4月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設された。

<ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者23人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

<ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介すると



クローズアップコーナー

ともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介。

<ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

<ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介。



「ゆかりの漫画家」コーナー



特別コレクション室

□ 展示構成

平成31年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要		
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索		
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介		
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ	
		源氏鶏太	筏井竹の門 高島 高	
		堀田善衛	岩倉政治 瀧口修造	
柏原兵三		遠藤和子 田中冬二		
木崎さと子		大井冷光 田部重治		
宮本 輝		翁 久充 暇 文兵		
三島霜川		角川源義 新田次郎		
横山源之助	小寺菊子 辺見じゅん			
		佐伯彰一 前田普羅		
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡		
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示		
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置		
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介		
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介		
	辺見じゅんコーナー	辺見じゅん氏ゆかりの寄贈資料を展示		
	クローズアップコーナー	明治150年関連企画「明治の作家たち—富山文学の黎明」展／「富山の同人雑誌—戦後から現在まで—」展		
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介		
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄 ^㉔ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則 花咲アキラ		
		特別コレクション室	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」関連展示／企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」関連展示／「生誕100年記念・堀田善衛の書齋」「堀田善衛の詩—館蔵品より」	
		ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎	
		「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰讓吉 椎名道三 藤井能三 馬場はる	

(注1) ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。30年度は4回の展示替えを行った。

□クローズアップコーナー

(1)明治 150 年「明治の作家たち—富山文学の黎明」展

会 期／平成30年 7 月 6 日(土)～12月24日(日)・(振)

担 当／巨尾絏一

出品点数／26点

趣旨・総括

明治期は新たな文化・文物が西洋からもたらされ、社会の枠組みや人々の価値観が大きく変化した時代です。元号が明治に改元されて150年。大きな節目の年を迎えるにあたり、明治期に文壇で活躍した富山県出身の文学者たちを紹介しました。

取り上げたのは4名。国語学の泰斗として知られる山田孝雄、女性職業作家の先駆けとなった小寺菊子、俳人・画人として活躍した筏井竹の門、彗星のごとく登場した俳人の澤田はぎ女です。

旧態依然とした意識からの脱却を図り、新たな価値を生み出すために腐心した跡を、書簡や著作本、雑誌などから振り返り、富山文学の黎明期を支えた文学者たちの志や思いに迫りました。



「国語・国文研究に注いだ情熱 山田孝雄」展示ケース



「彗星のごとく現れた俳人 澤田はぎ女」展示ケース

(2)「富山の同人雑誌—戦後から現在まで—」展

会 期／平成31年 1 月 6 日(日)～令和元年 6 月24日(日)

担 当／大川原竜一

出品点数／50点

趣旨・総括

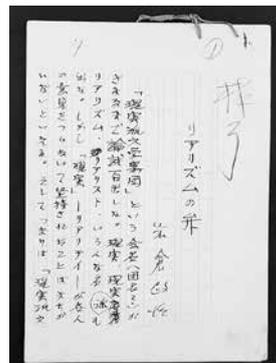
多くの近代文学の名作が発表され、また多くの作家を育ててきた同人雑誌。世情や流行に左右されるのではなく、ただ作品への熱意をもって執筆・発行された同人雑誌は、文学の基礎ともいえる大切な活動の場であったと位置づけられます。富山県においても、文学への情熱をもった人々によって戦後すぐに同人雑誌が発行され、文学活動は活況を呈していました。

戦後いち早く発行された同人雑誌では、文学による真実の探求がうたわれましたが、そのような作家たちの軌跡はあまり知られていません。

本展では、現在もその文化を受け継ぎ、地域に根付いた地道な文学活動をつづけている富山の同人雑誌を紹介しました。



「本格派の同人雑誌の創刊」展示ケース



岩倉政治自筆原稿「リアリズムの弁」(『現実派文学集団』創刊号掲載)

□特別コレクション室

特別コレクション室では、企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」関連展示（会期 平成30年6月10日（日）～7月30日（月））、企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」関連展示（会期 平成30年8月11日（土）～10月8日（月））、企画展「生誕100年・堀田善衛」関連展示（会期 平成30年10月17日（水）～平成31年6月24日（月））を開催しました。ここでは、「生誕100年・堀田善衛」を紹介します。

「生誕 100 年・堀田善衛」

会 期／平成30年10月17日(水)～平成31年6月24日(日)
担 当／小林加代子
出品点数／前期43点、後期7点

趣旨・総括

生誕100年記念特別展「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」(平成30年10月17日～12月17日)にあわせ、特別コレクション室では、会期中、池澤夏樹氏、大高保二郎氏、鹿島茂氏、宮崎駿氏、吉岡忍氏のインタビュー映像「時代の羅針盤 堀田善衛を語る」(各約5分)全編を上映するコーナーを設置しました。会期終了後、12月19日(水)～平成31年3月11日(月)は「生誕100年記念・堀田善衛の書斎」(前期)として、長女・堀田百合子氏より当館に寄贈された堀田善衛が晩年に愛用した机と、甥・堀田勝之氏より特別展開催を機に新たに寄贈された、廻船問屋であった堀田家伝来の品や、堀田善衛が若き日に伏木一ノ宮の実家で家族と撮影した写真など、ゆかりの品を公開しました。3月13日(水)～6月24日(月)は「堀田善衛の詩—館藏品より」(後期)として、戦中戦後に執筆された堀田善衛の詩稿「熱高く」、「宴」、「戦争／沈黙」、「亡命」など、当館所蔵の作品を展示公開しました。



前期展示より愛用の机による書斎イメージ(左)と伝来の船額「積善」(正面)



後期展示より色紙(右・額装)と詩稿「亡命」の展示(左)

□企画展示

(1)企画展「没後 20 年 星野道夫の旅 Selection」

会 期／平成30年6月10日回～7月30日回

主 催／高志の国文学館

共 催／朝日新聞社

特別協力／星野道夫事務所

協 力／富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

担 当／生田美秋（総括） 旦尾紘一（主務）

観覧者数／6,086人

出品点数／196点

印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

1996年8月、ロシア・カムチャツカ半島で取材中の事故により43歳で急逝した写真家・星野道夫。しかし大自然を賛歌したその生涯は、作品を通して今でも私たちに大きな感動を与えています。また、アラスカの大自然で暮らす人々への共感を綴った文章は、星野の飾らない人柄と人生観を素直に表現していて、読む人の心に訴えかけてきます。本展では、アラスカの動物、自然、人々の写真を通して、写真家・星野道夫の仕事を回顧しました。

本展は、「イントロダクション」、「マスターピース」、「生命のつながり」、「神話の世界」、「星野道夫の部屋」の5章で構成。星野の膨大な作品の中から代表作＝マスターピースと生命のつながりを感じさせる動物写真174点を展示しました。また、展示室外の導入部では、NHKが生前の星野に密着取材した未公開の映像を上映。人となりに迫るとともに、1枚の写真を撮影するために何日も費やす写真家・星野の情熱にスポットを当てました。

さらに特別コレクション室では、写真絵本「クマよ」

の関連作品や星野の愛読書、雑誌に寄稿した際のプロトタイプなど、貴重資料を展示しました。

関連イベントとしては、開会式後に星野道夫事務所代表で夫人の星野直子氏によるオープニングギャラリートークを行いました。道夫氏とのアラスカでの生活を振り返るとともに、スライドで写真を投影しながら作品に込められた思いを語っていただきました。また会期中には、ノンフィクション作家の柳田邦男氏による記念講演会「若き日の旅立ちと眼差し－極北で見つめた生命の真実－」を開催したほか、子ども向けと大人向けにそれぞれ「読み聞かせ」と「朗読&音楽」イベントを開催しました。

動物の愛くるしい写真や星野の誠実で温かな文章が話題を呼び、連日多くの観覧者で賑わいを見せる展覧会となりました。



「イントロダクション」 展示風景



「生命のつながり」 展示風景



「神話の世界」 展示風景



「星野道夫の部屋」 展示風景

□関連行事

① オープニングギャラリートーク

開催日	講師	演題	参加者数
6月10日(日)	星野 直子 氏	「星野道夫の旅をたどる」	89

② 記念講演

開催日	講師	演題	参加者数
7月1日(日)	柳田 邦男 氏 (ノンフィクション作家・評論家)	「若き日の旅立ちと眼差し -極北で見つめた生命の真実-」	120

③ 星野道夫の絵本 読み聞かせ—子どもたちへの贈りもの

開催日	出演者	朗読作品	参加者数
6月24日(日)	読み聞かせ広げ隊	『アラスカたんけん記』 『クマよ』 『ナヌークの贈りもの』	63

④ 星野道夫のエッセイ 朗読&音楽—大人たちへの贈りもの

開催日	出演者	朗読作品	参加者数
7月8日(日)	廣川 奈美子 氏 (朗読) 松浦 有里 氏 (ピアノ)	『長い旅の途上』より ・「オーロラのダンス」 ・「流水の囁き」 ・「ツンドラに咲く小さな命」 ・「ムースに降る雪」 ・「はるかな時を超えて」 ・「アラスカ山脈の冬・自然の猛威」 ・「穏やかな春の日に」 『旅をする木』より ・「もうひとつの時間」	151

⑤ 展示担当者によるギャラリートーク

【開催日】 6月24日(日)、7月1日(日)、7月8日(日)

(2)企画展「里中満智子 「愛」のテーゼ」

会 期／平成30年 8月11日 田・㊟～

10月 8日 田・㊟

主 催／高志の国文学館

特別協力／里中プロダクション

後 援／北日本新聞社、チューリップテレビ

担 当／生田美秋（総括） 大川原竜一（主務、図録）

観覧者数／2,864人

出品点数／411点

印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判

図録A 5判 むり絵A 4判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

「ピアの肖像」(第1回講談社新人漫画賞受賞)以降、「アリエスの乙女たち」や「あすなる坂」「天上の虹～持続天皇物語」などの数々のヒット作を生みだしつづける里中満智子。50余年にわたり愛することの意味を問いつづけた作品には、彼女自身の一人の女性としての生き方が投影されています。本展では、現代女性の恋愛物語から歴史ロマンまで幅広い題材をとりあげて描く里中満智子の「愛」のテーゼ(命題)を紹介しました。

本展は、第1章「愛の賛歌」、第2章「男の愛、女の愛」、第3章「愛、そして「生きる」」、第4章「歴史・古典のなかの愛」の四章立てで構成。デビュー作から最新の作品まで、300点以上の直筆原稿を展示しました。加えて仕事道具やマンガのネーム、プロットなども出展しました。展示室内では、里中本人が代表作の魅力や自らの創作姿勢を語るインタビュー映像を流すとともに、パネルやバナーに作品のワンシーンと登場人物のセリフを掲載して、里中や登場人物からの「愛」のメッセージを観覧者に届けました。

ロビーには、導入展示として「アリエスの乙女たち」や「天上の虹」などのハイライトシーンを特大パネル

にしてつり下げ、観覧者を里中ワールドへと誘いました。さらに特別コレクション室では、制作中の長編マンガ「言霊の人・大伴家持」の原画を展示しました。

本企画展では、当館初の試みとして、展示室内をすべて写真撮影可能とし、来館者によるSNSを通じた情報発信を期待できる仕組みをとりいれました。さらに、マンガ家・里中満智子についてのガイドブックとなるよう構成した高志の国文学館編のカタログを、本展に合わせて発行。里中の直筆メッセージや、デビュー以前の未完成作品を収録しました。

関連イベントとしては、開会式でライブペインティングセレモニーを催し、里中満智子氏にオリジナル作品を描いていただきました。会期中には、マンガ研究者のヤマダトモコ氏による「トーク 里中満智子を語る」や、担当学芸員によるギャラリートークを開催したほか、幅広い年代の方が楽しめるよう、里中マンガや学習マンガが自由に読める読書コーナーを設置。また、人気作品「天上の虹」「アリエスの乙女たち」などのオリジナルぬり絵をお土産としてプレゼントする企画も行いました。



第1章「愛の賛歌」 展示風景



第3章「愛、そして「生きる」」の「あすなる坂」コーナー



第4章「歴史・古典のなかの愛」 展示風景



導入展示 展示風景

□関連行事

① 記念講演&サイン会

開催日	講師	演題	会場	参加者数
8月11日(土・祝)	里中 満智子 氏	「万葉集の愛の形」	北日本新聞ホール	220

② トーク 里中満智子を語る

開催日	講師	演題	参加者数
8月19日(日)	ヤマダトモコ 氏 (マンガ研究者・明治大学米沢嘉博記念図書館)	「里中満智子先生についての私的概説」	32

③担当学芸員によるギャラリートーク

【開催日】 8月26日(日)、9月2日(日)、9月17日(月・祝)、10月6日(土)



ライブペインティングセレモニー



オリジナルぬり絵

(3)生誕 100 年記念特別展「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」

会 期／平成30年10月17日(金)～12月17日(日)

主 催／高志の国文学館

共 催／北日本放送

後 援／北日本新聞社

特別協力／岩波書店、株式会社スタジオジブリ、
県立神奈川近代文学館/(公財)神奈川文学振興会、
集英社、筑摩書房、堀田百合子

協 力／紀伊國屋書店、清明堂書店、BOOKSなかだ、
文苑堂書店、明文堂書店

担当学芸員／生田美秋(総括) 小林加代子(主務)

観覧者数／4,811人

出品点数／643点

印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判

関連書籍 新書



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

芥川賞作家堀田善衛は、富山県高岡市伏木の廻船問屋に生まれました。上京して二・二六事件、東京大空襲に遭遇し、終戦前後の混乱期を上海で過ごしました。帰国後、80歳で亡くなるまで、乱世を生きる人間像を描き続けました。

今回の特別展では、堀田善衛が生きた時代と文学者としての仕事

について、県立神奈川近代文学館が所蔵する原稿、創作ノート、執筆資料、旧蔵品、堀田善衛撮影の世界各地の写真を中心に紹介しました。あわせて、代表作『ゴヤ』の関連作品として、神奈川県立近代美術館が所蔵するゴヤの作品『戦争の惨禍』『気まぐれ』から銅版画16点を展示紹介しました。特設コーナーでは、スタジオジブリの宮崎駿監督、鈴木敏夫プロデューサーとの親交を伝える作品、宮崎吾朗監督が描いた「路上の



関連書籍

人」(堀田善衛原作)のイメージボードや絵コンテなどを紹介しました。また、堀田善衛の作品に親しんだ、池澤夏樹氏、大高保二郎氏、鹿島茂氏、宮崎駿監督、吉岡忍氏のインタビュー映像「時代の羅針盤 堀田善衛を語る」を会場内で上映し、インタビュー全文を掲載した関連書籍『堀田善衛を読む 世界を知り抜くための羅針盤』(集英社新書、2018年)を刊行しました。

オープニングセレモニーとして、四十谷隆司氏による堀田善衛愛用のギター演奏、堀田百合子氏と鈴木敏夫氏によるスペシャル対談を開催し、会期中には、高橋源一郎氏による記念講演、秦剛氏と紅野謙介氏による「堀田善衛と上海」をテーマとした文学講座と記念対談、友の会バスツアーなどを開催しました。



「堀田善衛の書斎」コーナー



「堀田善衛が見た世界」コーナー



「伏木中学校の歌」タペストリー (企画展示室入り口前)

□関連イベント

①オープニングセレモニー

開催日	内 容・出 演 者	参加者数
10月17日(水)	第一部 開会式 第二部 堀田善衛愛用のギター演奏 四十谷 隆司 氏 (ギタリスト・四十谷ギター学院主宰) スペシャル対談「堀田善衛と宮崎駿、スタジオジブリ」 堀田 百合子 氏 (堀田善衛長女) 鈴木 敏夫 氏 (スタジオジブリプロデューサー)	167

②講演

開催日	講 師	演 題	受講者数
11月17日(土)	高橋 源一郎 氏 (作家)	記念講演 「堀田善衛をはじめて読むあなたへ」	120
11月25日(日)	講演講師 秦 剛 氏 (北京日本学研究中心教授) 対談講師 紅野 謙介 氏 (日本大学文理学部教授)	文学講座と記念対談 (県民カレッジ連携講座) 「堀田善衛と上海」	112

③連続読書会

開催日	担当者	テーマ・作品	参加者数
10月27日(土)	生田 美秋 (高志の国文学館事業部長)	堀田善衛の小説を読む—路上の視点から 『路上の人』(徳間書店、2004年)	15
11月4日(日)	小林 加代子 (高志の国文学館主任・学芸員)	堀田善衛の小説を読む—音楽に注目して 『若き日の詩人たちの肖像』 (集英社文庫、上下巻、1977年)	16

④特別上映会

開催日	作 品	参加者数
10月20日(土)	「水平線と羅針盤—堀田善衛のメッセージ」(KNB、2010年)	23
11月18日(日)	「風の谷のナウシカ」(スタジオジブリ、1984年)	31

⑤担当学芸員によるギャラリートーク

【開催日】10月20日(土)、10月27日(土)、11月4日(日)、11月17日(土)、11月18日(日)、11月25日(日)

(4)企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」

会 期／平成31年 1月 6日回～ 3月 4日回
 主 催／高志の国文学館
 共 催／北日本新聞社
 後 援／富山テレビ放送
 協 力／一般財団法人倉本財団
 企画制作／株式会社 MIMOseele
 担 当／生田美秋（総括） 旦尾紘一（主務）
 観覧者数／5,412人
 出品点数／195点
 印刷物／チラシA 4判 ポスターA 1判
 はがきコンテストチラシA 4判



チラシ 表



チラシ 裏



はがきコンテストチラシ

趣旨・総括

ドラマ「北の国から」「風のガーデン」、映画「駅 STATION」など、多くの名作を世に送り続けてきた脚本家・倉本聰。特に「北の国から」では北海道の大自然の中で伸び伸びと生きる親子を描き、日本を代表するテレビドラマとなりました。その後は北海道に「富良野塾」を設立。主に若い演劇人の養成に力を入れました。近年は東日本大震災を題材とした舞台「ノクターン」、シニア向けのテレビドラマ「やすらぎの郷」など、時代と向き合う作品で注目を集めています。本展では、自然と向き合い、木々の声に耳を傾けながらライフ

ワークとして取り組んでいる点描画作品を中心に紹介し、倉本の思いを届けました。

本展は、第1章「冬」、第2章「春」、第3章「夏」、第4章「秋」、第5章「ふたたび冬」の5章と、福島県富岡町の桜を描いた作品「夜の森 桜はそっと眩く」のコーナーで構成。倉本が樹の一本一本にドラマを見出し、樹がささやく心のうちを文字にして書き添えた、独自の世界を成す点描画116点を展示しました。また、展示室外ではドラマや演劇の制作に用いた資料を紹介し、創作に懸ける脚本家の熱意とともに、一つの作品が世に出るまでのプロセスをわかりやすく観覧者に届けました。

ロビーには、導入展示として企画展に先駆けて行われた「倉本聰と点描画 はがき作品コンテスト」の応募作品116点を掲出するとともに、県立呉羽高校書道部が企画展に合わせて揮毫した書道パフォーマンス作品「春」を展示し、会場を盛り上げました。

関連イベントとしては、開会式でオープニングギャラリートークを催し、倉本聰氏に自身の作品について解説していただきました。また会期中には、倉本氏と親交のある本県出身の落語家、立川志の輔氏による講演会を開催。ユーモアたっぷりに語る、志の輔師匠の巧みな話術に多くの聴衆が惹きつけられました。



第3章「夏」 展示風景



第5章「ふたたび冬」 展示風景



ドラマ「北の国から」コーナー 展示風景

□関連行事

①オープニングギャラリートーク

開催日	講師
1月6日(日)	倉本 聡 氏

②講演会

開催日	講師	演題	参加者数
1月27日(日)	立川 志の輔 氏 (落語家)	「富山の自然と私」	140

③朗読会『木を植えた人』

開催日	出演者	参加者数
2月16日(土)	榊原 忠美 氏 (劇団クセック ACT 所属)	85

④展示担当者によるギャラリートーク

【開催日】 1月14日(月・祝)、1月26日(土)、2月11日(月・祝)、2月24日(日)



「はがき作品コンテスト」応募作品 展示風景



「高校生書道パフォーマンス」作品 展示風景

(5)大伴家持生誕 1300 年記念企画展「家持発見—響き合う詩歌と絵画」

会 期／平成31年 3月17日回～
令和元年 5月13日回
主 催／高志の国文学館
共 催／北日本新聞社
後 援／富山新聞社、読売新聞北陸支社、
NHK富山放送局、北日本放送、
富山テレビ放送、チューリップテレビ
特別協力／奈良県立万葉文化館
協 力／高岡市万葉歴史館
担 当／生田美秋（総括） 綿引香織（主務）
山田優子（補佐）
観覧者数／575人（平成30年度中）
（全会期中は 6,225人）
出品点数／60点
印刷物／チラシA 4判（2種） ポスターA 1判
ガイドブックA 4判（19頁）



チラシ 表



チラシ 裏



ガイドブック表紙

趣旨・総括

大伴家持生誕1300年記念企画展（全3回）の最後を飾る本展では、家持の名歌をモチーフにした絵画の世界に着目しました。

現代を代表する日本画家・洋画家が家持の歌をモチーフに描いた絵画の数々は、画家たちが家持の歌を

どう捉えたのかを語りかけてきます。本展では、家持の歌のこころを叙情性豊かに表現したこれらの絵画との対話を通じて、あらためて家持の歌の世界に想いを馳せていただく機会を提供することを目指しました。

展示室外には、導入展示として「親子で楽しむ はじめての越中万葉」という特設コーナーを設け、佐竹美保による絵本『春の苑紅にほふーはじめての越中万葉』の原画パネルの展示、ピーエーワークスのアニメ「マイの越中万葉体験記」の上映を行い、「家持博士」クイズを実施しました。また、県立富山いずみ高校の書道部による、家持の歌をモチーフにした書道パフォーマンス作品も展示しました。

展示室内は、絵画27点についてそのモチーフとなった家持の歌とともに鑑賞できるように構成しました。あわせて、三十六歌仙図の一部や立体像として表現された家持の姿も紹介しました。当館の新収蔵資料である『三十六人歌合』（17～18世紀）は、今回が初公開の機会となりました。

関連イベントとしては、森田りえ子氏と中西館長によるスペシャル対談、高階秀爾氏による特別記念講演、菊地義裕氏と草薙奈津子氏による関連講座のほか、勾玉や和同開珎の制作体験、万葉仮名を書くワークショップ、万葉衣装の着用体験を実施しました。

会期中には、万葉集を出典とした新元号「令和」が発表されたことを受けて、その記念コーナーを4月10日から展示室内に新設しました。青柳志郎氏による「令和」の書のパネルと記念撮影ができるコーナーは、来館者に好評でした。



『三十六人歌合』表紙



『三十六人歌合』より 中納言家持、山辺（部）赤人



新年号「令和」記念コーナー 展示風景



第2章「心を見つめる一恋と悲しみ」 展示風景

□関連行事

①開館記念 スペシャル対談

開催日	出演者	テーマ	参加者数
3月17日(日)	森田 りえ子 氏 (日本画家、京都市立芸術大学客員教授) 中西 進 (当館館長)	「詩歌と絵画」	50

②特別記念講演

開催日	講師	演題	会場	参加者数
4月14日(日)	高階 秀爾 氏 (大原美術館館長)	「詩歌と絵画の交響—絵画に見る日本人の心」	サンシップとやま	280

③関連講座

開催日	講師	演題	参加者数
5月5日(日・祝)	菊地 義裕 氏 (東洋大学教授)	「家持における景の詠出」	46
5月11日(土)	草薙 奈津子 氏 (平塚市美術館館長)	「現代日本画—うすれゆく文学性のはざままで」	51

④ワークショップ 勾玉を作ろう

【開催日】 3月24日(日)、4月28日(日)

⑤ワークショップ 和同開珎を作ろう

【開催日】 5月6日(月・祝)

⑥ワークショップ 万葉仮名を書いてみよう

【開催日】 4月28日(日)～5月6日(月・祝)

⑦万葉衣装を着てみよう

【開催日】 5月3日(金・祝)、5月4日(土・祝)

⑧担当学芸員によるギャラリートーク

【開催日】 4月14日(日)、5月5日(日・祝)、5月11日(土)

2. 資料概況

□資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H29年度	購入	14,431	132	42	228	36	5	67	411	1	116	15,469
	寄贈	37,423	783	125	1,712	2,134	176	948	450	62	237	44,050
	製作	3	14	10	5	16	13	1			2	64
	小計 (A)	51,857	929	177	1,945	2,186	194	1,016	861	63	355	59,583
H30年度	購入	528	10		5	3	2	6	1			555
	寄贈	1,175			16	7	26	39	3	4		1,270
	製作		1			2	1					4
	小計 (B)	1,703	11	0	21	12	29	45	4	4	0	1,829
～H29+H30合計(A)+(B)		53,560	940	177	1,966	2,198	223	1,061	865	67	355	61,412

□主な新収蔵資料

寄 贈

作者等	資料名
竹久夢二 他	多作家自筆寄書帖 (大正8年～11年頃)
竹久夢二	セノオ楽譜No.290「御神やよ 歌劇オルフォイス」表紙原画 (大正13年)
—	笹竜胆紋唐草蒔絵五段重箱 (堀田善衛旧蔵)
—	机 (堀田善衛旧蔵)
—	船額「積善」(堀田善衛生家「鶴屋」伝来)
—	羅針盤 (堀田善衛生家「鶴屋」伝来)
藤森兼明	越中万葉絵画「紅にほふ少女らし」エスキース
山根青鬼	干支色紙
田中冬二	色紙「くずの花」
釋超空 (折口信夫)	掛軸「師の道を伝ふることもたえゆかむわれさへに人をいとひそめつゝ」

購 入

作者等	資料名
—	画帖『三十六人歌合』(17～18世紀)
野村尚吾	草稿「花の寺」(400字詰原稿用紙60枚)
堀田善衛	草稿「我々の運命」(400字詰原稿用紙32枚)
沢木欣一	草稿「十五年の実感」(400字詰原稿用紙21枚)
新田次郎	草稿「山に生きる人々 名案内人嘉門次」(400字詰原稿用紙5枚)
渡辺順三	草稿「文筆生活と古本屋」(200字詰原稿用紙15枚)
川田順	短冊「大鷲のおりかくろひしむかつやま龍王岳はいや高く見ゆ」
翁久允	画賛幅 (1944年揮毫)
平塚らいてう	小寺健吉宛書簡 (1957年1月28日消印、便箋2枚)
渡辺順三	岸田泰政宛書簡 (1958年3月3日消印)
斎藤素影	『恋のなやみ』(金港堂書籍、1903年刊)
大井冷光	『冷光童話集 鳩のお家』(富山房、1921年刊)
多胡羊歯	『童謡集 くらら咲く頃』(アルス、1932年刊)
舟木富彌著、蜷川義正編	『香洲句集』(墨汁吟社、1910年刊)
—	『プロレタリア短歌』第3巻第8号 (プロレタリア短歌発行所、1932年4月刊)

3. 教育・普及事業

平成30年度は、大伴家持生誕1300年記念式典を実施したほか、前年度に引続き、企画展と連動した講演会、映画上映会、さらには、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントなど、多彩なイベントを実施した。

大伴家持生誕1300年記念事業

□ 高校生のための平成万葉塾

県内の高校生に対して家持の普及活動を行うため、講演（6回）を実施。

開催日	演題	講師	実施校
7/11(水)	家持の聞いた越中のほととぎす	辰巳 正明 氏 (國學院大學名誉教授)	高岡龍谷高等学校
7/12(木)	大伴の家持と越中万葉	坂本 信幸 氏 (高岡市万葉歴史館館長)	砺波工業高等学校
7/23(月)	布勢水海遊覧の賦—家持の 越中文学を読む—	辰巳 正明 氏 (國學院大學名誉教授)	氷見高等学校
9/18(火)	大伴家持と立山の賦	多田 一臣 氏 (東京大学名誉教授)	魚津高等学校
10/16(火)	大伴家持二題—越中の風土と 恋の一端	多田 一臣 氏 (東京大学名誉教授)	新湊高等学校
10/23(火)	見れども飽かず—越中の自然を 詠む	平舘 英子 氏 (日本女子大学名誉教授)	水橋高等学校



□平成の越中万葉－中学生短歌講座－

県内の中学生を対象に、富山県歌人連盟の方々を講師にお迎えし、「生活」・「自然」等をテーマに短歌を創作する授業を実施。



開催日	場 所
7/10 (火)、7/17 (火)	砺波市立庄川中学校
9/14 (金)、9/21 (金)	滑川市立早月中学校

□大伴家持生誕1300年記念式典

開催日／平成30年7月28日回

会 場／富山県民会館ホール

参加者／1000名

富山県では、越中において数々の秀歌を生んだ大伴家持の生誕1300年を記念して、世界のすぐれた詩人の業績を顕彰する大伴家持文学賞及び富山ゆかりの詩歌を対象とした高志の国詩歌賞を創設。第1回大伴家持文学賞受賞者は、Michael Longley（マイケル・ロングリー）氏。第1回高志の国詩歌賞受賞者は山田航氏に決定した。

概 要

- 式辞、祝辞
- 第1回大伴家持文学賞・第1回高志の国詩歌賞贈呈式
- 海外文筆家からのお祝いメッセージ
- 記念講演 Michael Longley（マイケル・ロングリー）氏
- 詩の朗読 室井 滋 氏（女優、ナレーター、エッセイスト）
- パネルディスカッション

亀山 郁夫 氏（大伴家持文学賞選考委員、名古屋外国語大学学長）

松浦 寿輝 氏（大伴家持文学賞選考委員、詩人、作家、東京大学名誉教授）

室井 滋 氏

山内マリコ 氏（小説家、エッセイスト）

- 記念演奏 東儀 秀樹 氏（雅楽師）



□西村まさ彦プロデュース 大伴家持生誕1300年記念

和歌と朗読を楽しみ、童謡を歌い、日本語の美しさを知る集い《小学生編》

開催日／平成30年10月13日 日

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／100名

平成30年10月13日（土）、富山県内の小学生が、富山県出身の俳優・西村まさ彦氏と朗読や合唱を披露する「和歌と朗読を楽しみ、童謡を歌い 日本語の美しさを知る集い《小学生編》」が開催された。

公演では、「小学生のための家持の名歌」より選ばれた越中万葉の名歌の朗読、富山県出身のシンガーソングライター高原兄氏が作詞・作曲した「こころが今日も笑顔」、ふるさと富山をテーマに久石譲氏が作曲した「ふるさとの空」の合唱が行われた。



□大伴家持生誕1300年記念事業・講演と音楽の集い

「家持のうたごえー美術と音楽の交響」

開催日／平成30年12月9日 日

会場／パレプラン高志会館 2階カルチャーホール

参加者／300名

大伴家持生誕1300年記念事業の一環として開催。

文化学園大学教授の堀尾真紀子氏による講演「万葉びとの染織文化」、宗次郎氏によるオカリナ演奏「いにしえ～万葉のころ～」を実施した。



その他のイベント

□観桜の集い2018

開催日／平成30年4月8日回

会場／高志の国文学館研修室101（特設ステージ）

参加者／733名

平成30年4月8日（日）、桜をめりながら春にちなんだ万葉集の歌の世界などを味わう「観桜の集い2018」を開催。

桐朋オーケストラアカデミー弦楽四重奏団による演奏に始まり、可西舞踊研究所と和田朝子舞踊研究所による洋舞、県内のテレビ・ラジオ局で活躍するアナウンサーによる朗読、万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会による万葉集の朗唱、富山県詩吟剣舞連盟による詩吟、藤間松頭氏による日舞など、様々な演目が披露された。石井知事、中西館長らによる特別朗唱・朗読も行われ、最後は箏演奏家、大谷祥子氏、黒川真理氏の演奏で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、呈茶、いけばな展示、ます寿し販売が行われ、会場は多くの人で賑わった。



□文芸サロン

日本ペンクラブ富山の会は、県民が深く文芸を愛し、さらに創作の伸びを求めるに至ることを期待して、広く県ゆかりの文芸人の協力を求めつつ、高志の国文学館において文芸サロンを開設。

主催は日本ペンクラブ富山の会、共催は高志の国文学館。日本ペンクラブ富山の会の会員および県ゆかりの文芸人が1名ずつ話題提供し、それに対して他の会員がコメント。その後、コメントをめぐって参加者と討論するという形で、平成29年度に引き続き開催。



開催日	話題提供者、課題図書	参加者数
6/17(日)	中坪 達哉 氏、棟方志功『板極道』（中公文庫）	26
9/16(日)	中西館長、川端康成『古都』（新潮文庫）	32
12/16(日)	吉田 泉 氏、川端康成『掌の小説』（新潮社）	25
3/17(日)	久泉 迪雄 氏、新田次郎『劔岳＜点の記＞』（文春文庫）	30

□高志プロジェクト

開催日／平成30年7月22日回

会場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた者に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、平成30年度には次の2者が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定団体による研究成果発表会も行われた。



〔高志プロジェクト認定研究〕

	代表者氏名	研究課題名
1	大村 歌子（富山近代史研究会会員）	角川源義と父祖の地
2	奥野 美友紀（富山県立大学非常勤講師）	五十嵐篤好の古典研究

□読書感想文サポート講座

開催日／平成30年7月29日回

会場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校中学年及び低学年を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山県教育委員会西部教育事務所指導主事の高岡陽子先生と、富山大学人間発達科学部の学生の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援した。



講座	対象図書	参加者数
小学校中学年向け講座	『すごいね！みんなの通学路』（西村書店）	90
小学校低学年向け講座	『がっこうだっってどきどきしてる』（WAVE出版）	

□第5回サブカルチャー講座

開催日／平成30年 8月12日回、8月25日回

会 場／高志の国文学館研修室101

芸能オフィスリレーションより講師を招聘して、アフレコチャレンジ教室及びイラスト体験教室を開催した。

アフレコチャレンジ教室では、講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行った。

イラスト体験教室では、絵を描くためのノウハウを学び、キャラクターデザインを体験した。



開催日	講 座	参加者数
8/12(日)	アフレコチャレンジ教室	10
8/25(土)	イラスト体験教室	8

□観月の集い2018

開催日／平成30年 9月23日回

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／158名

平成30年 9月23日（日）、中秋の名月の日にちなみ、「観月の集い2018」を開催。ステージでは、島田純子氏らによるフラメンコの披露が行われた後、一守明子氏によるアイリッシュハーブの演奏、梅澤泰子氏（語り）、小野口基氏（語り／テノール）、原田万里子氏（ピアノ）による朗読劇が行われ、聴衆を魅了した。

その他、会場では富山県茶道連盟による呈茶が振る舞われたほか、富山県華道連合会によるいけばなの展示も行われた。



□朗読と音楽の夕べ

9月から11月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催。

第4回では、生誕100年記念特別展「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」に合わせ、堀田善衛著『若き日の詩人たちの肖像』を北日本放送の陸田陽子アナウンサーが朗読した。



開催日	出演者	作品	観覧者数
9/29(土)	朗読：今城 和久 氏 (NHK 富山放送局) 演奏：織田 英子 氏 (ピアノ)	安房直子 『ゆめみるトランク』ほか	85
10/11(木)	朗読：西 美香 氏 (チューリップテレビ) 演奏：四十谷 諒 氏 (フルート) 大蔵 彩瑛 氏 (ピアノ)	山内マリコ 『メガネと放蕩娘』	90
10/27(土)	朗読：吉本 麻希子 氏 (FMとやま) 演奏：堀江 加奈恵 氏 (ヴァイオリン) 竹内 佳代 氏 (ピアノ)	黒柳徹子 『窓ぎわのトットちゃん』	118
11/9(金)	朗読：陸田 陽子 氏 (北日本放送) 演奏：中沖 いくこ 氏 (ピアノ)	堀田善衛 『若き日の詩人たちの肖像』	126
11/23(金・祝)	朗読：岡部 里香 氏 (富山テレビ放送) 演奏：守護 菊野 氏 (ヴィオラ) 林原 恵子 氏 (ピアノ)	サン＝テグジュペリ 『星の王子さま』	140

□書道パフォーマンス

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催。

今年度は、期間中開催する企画展の連携企画として、倉本聰の点描画集のことば、大伴家持が詠んだ歌をテーマに高校書道部によるパフォーマンスを開催。



開催日	出演	参加者数
12/22(土)	富山県立呉羽高等学校書道部	62
3/9(土)	富山県立富山いずみ高等学校書道部	80

□第5回高校生による朗読会

開催日／平成31年1月26日(土)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

出場校／富山県立桜井高等学校放送部

富山県立富山中部高等学校放送部

富山県立富山高等学校放送部

富山県立呉羽高等学校放送演劇部

参加者／131名



平成31年1月26日(土)、高校生に日頃の練習の成果を発表いただくとともに、幅広い年代の方々に朗読の魅力と可能性を再発見していただくため、第5回高校生による朗読会を開催。各高校の放送部が、それぞれ下記の作品を朗読。

高志の国文学館長賞には、富山高等学校が選ばれ、賞状、カップ、中西館長サイン入り著書『文学の胎盤』が贈られた。

また、この日は、第71回「富山県少年少女自作童話大会」(北日本新聞社主催)受賞者による発表も行われ、最優秀賞を受賞した射水市立塚原小学校6年生の本田彩笑さんが、『サキと希望の石』を披露し、会場は温かい拍手に包まれた。

学校名	作品
富山県立桜井高等学校放送部	「つめたいよるに」江國香織(新潮文庫)より 「晴れた空の下で」
富山県立富山中部高等学校放送部	「雪渡り」宮沢賢治(河出書房新社)
富山県立富山高等学校放送部	「5分後に意外な結末 赤い悪夢」より 「父の時給」(Gakken)
富山県立呉羽高等学校放送演劇部	「白いぼうし」あまんみきこ(ポプラ社) 「やまなし」宮沢賢治(筑摩書房) 「私と小鳥と鈴と」金子みすゞ(JULA 出版局)



□平成30年度文学講座

平成30年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「巨人の物語をひもとくシリーズ」及び「ゆかりの文学者シリーズ」を開催した。

大学連携シリーズ

開催日	演題	講師	受講者数
5/13(日)	「大伴家持 豪族の面影」	鈴木 景二 氏 (富山大学人文学部教授)	90
5/20(日)	「大伴家持が見た天平美術の世界」	三宮 千佳 氏 (富山大学芸術文化学部講師)	81
6/30(土)	「雪氷圏の世界」	杉浦 幸之助 氏 (富山大学大学院理工学研究部教授)	58
7/14(土)	「ラフカディオ・ハーンとクレオールの民話」	中島 淑恵 氏 (富山大学人文学部教授)	81

巨人の物語をひもとくシリーズ

開催日	演題	講師	受講者数
9/15(土)	「女医界のパイオニア 佐藤やい先生」	羽根 由 氏 (株式会社PCO代表取締役)	37
10/21(日)	「馬場はるの出会った人々」	大村 歌子 氏 (富山近代史研究会会員)	69
11/10(土)	「保育事業の先駆者 堀田くに」	浅生 幸子 氏 (女性史研究家)	44
12/1(土)	「亜武巢マーガレットはどのように記憶されているか」	堀江 節子 氏 (著述編集者)	30

ゆかりの文学者シリーズ

開催日	演題	講師	受講者数
10/7(日)	クローズアップコーナー 連携企画 「郷土の俳人 澤田はぎ女入門」	小林 貴子 氏 (俳誌「岳」編集長)	51
11/25(日)	生誕100年記念特別展 「堀田善衛－世界の水平線を見つめて」連携企画 「堀田善衛と上海」	<講演講師> 秦 剛 氏 (北京日本学研究中心教授) <対談講師> 紅野 謙介 氏 (日本大学文理学部教授)	112
12/8(土)	「三島霜川の文学―秋聲を視野に入れつつ―」	上田 正行 氏 (徳田秋聲記念館館長)	46
12/15(土)	「細田守の作品世界」	日置 俊次 氏 (青山学院大学文学部教授)	40

□映画パネル展

会 場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

高志の国文学館では、富山県を舞台にした映画等、県ゆかりの映画の公開に合わせてライブラリーコーナーにおいてパネル展を開催。パネル展では、映画で使用された台本や映画紹介、ロケ地マップ、映画シーンのパネルなどを展示

開催日／平成30年 5月23日(金)～6月30日(土)

映画「となりの怪物くん」、「四月の永い夢」

開催日／平成30年 8月31日(金)～平成30年10月中旬

映画「君の膵臓を食べたい」

開催日／平成30年10月18日(金)～11月中旬

映画「ここは退屈迎えに来て」

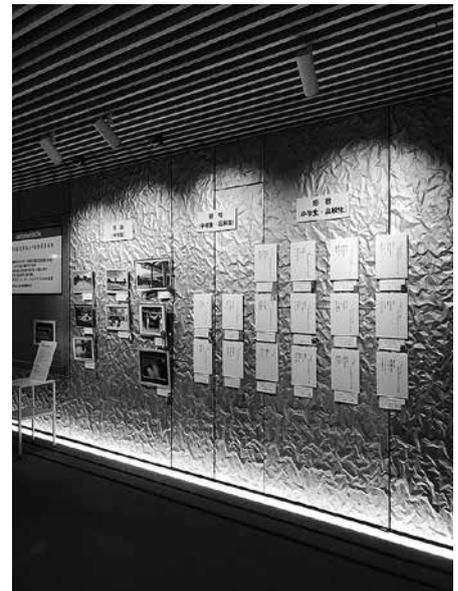


□「高志の国文学」情景作品コンクール

開催日／平成30年10月24日(金)～11月30日(土)

会 場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、先人の喜び、悲しみ、悩み、感動などを伝える「高志の国文学」にふれ、感じた心情や情景を、文芸や美術、写真で表現したものを中学生・高校生を対象に募集した。今回は、応募のあった2,937点（文芸2,438点、美術191点、写真308点）のなかから、入賞した60点を展示した。



□室内楽フェスティバル2018 in 高志の国文学館

開催日／平成30年11月10日(土)

会場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

参加者／95名

平成30年11月10日（土）、高志の国文学館ライブラリーコーナーにおいて「とやま室内楽フェスティバル2018 in 高志の国文学館」が開催された。

とやま室内楽フェスティバルは、若手室内楽演奏家を育成し、その成果を富山県の音楽芸術の振興に活かす国内でも特色のある音楽祭で、その一環として当館や水墨美術館などでコンサートを開催している。

今回はサントリーホール室内楽アカデミー第5期生の関朋岳（ヴァイオリン）、中村詩子（ヴィオラ）、牟田口遥香（チェロ）による弦楽三重奏団にゲストピアニストとして練木繁夫を加えたメンバーで、モーツァルト「ディヴェルティメント K.563より 第1・4・6楽章」、ブラームス「ピアノ四重奏曲第1番より 第1・4楽章」ほかを演奏し、普段は文学に親しむ平靜な空間で、上質で心地よい音楽を体感できる貴重な機会となった。



□炉辺暖話

コーヒーを飲みながら、高志の国文学館の学芸員らと設定されたテーマについて語り合う「高志の国文学館 炉辺暖話」を開催。平成30年度は以下のテーマで全3回実施した。



開催日	担当・テーマ	参加者数
2/10(日)	事業部長 生田美秋「座右の書」	8
3/10(日)	主任 旦尾絃一「鉄道と文学の関係」 一内田百閒『阿房列車』、阿川弘之『南蛮阿房列車』、宮脇俊三『最長片道切符の旅』 を中心に—	8
3/21(木・祝)	事業課長 永原美智代「朗読の楽しみ」 —宮下奈都『羊と鋼の森』を題材として—	12

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

平成30年度は、中西進氏（高志の国文学館館長）特別講演会「余白 空白 そして留守」の共催をはじめ、企画展関連バスツアーや研修旅行、講師の先生を囲んでざっくばらんにお話する「カフェ&トーク」のほか、文学館が主催する各種イベントや講演会等への優先参加を行った。

会員数	548名(平成31年3月31日現在)	
一般会員	401	
法人会員	14	
5年会員（個人）	109	5年会員（法人）2
賛助会員（個人）	19	賛助会員（法人）2
学生会員	1	

会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員（個）	10,000円
5年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待

平成30年度事業

- ・大伴家持生誕1300年記念バスツアー
「大伴家持が見た風景を訪ねて」
8月4日(土) 参加者40名
高岡市万葉歴史館、勝興寺、
氷見沖クルージング、道の駅「雨晴」など
- ・堀田善衞生誕100年記念バスツアー
「堀田善衞ゆかりの地めぐり」
11月11日(日) 参加者26名
旧堀田家本宅跡、堀田家高台の家、
伏木北前船資料館など
- ・春の研修旅行
「万葉集のふるさとを訪ねて」
4月20日(金)～21日(土) 参加者29名
東大寺、奈良県立万葉文化館、京都御所など
- ・秋の研修旅行
「東北文学ゆかりの地を訪ねて」
11月30日(金)～12月1日(土) 参加者32名
石川啄木記念館、宮澤賢治記念館、中尊寺金色堂
など
- ・中西進氏(高志の国文学館館長) 特別講演会
「余白 空白 そして留守」
(高志の国文学館友の会、富山県[立山博物館]友の
会、富山県水墨美術館友の会、富山近美友の会共催)
平成31年3月3日(日) 参加者96名
- ・カフェ&トーク
7月1日(日)「柳田邦男氏を囲む集い」
参加者24名
7月14日(土)「中島淑恵氏を囲む集い」
参加者13名

理事会

平成30年5月14日(月)

Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数・観覧者数

区 分	会 期	日 数 (a)	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計 (b)	1日 あたり (b/a)	
歌人 大伴家持 - 現代と響き合う詩心	H30.4.1~5.21 (H30.3.18~5.21)	43 (55)	14,199 (17,621)	2,653 (3,205)	2,594 (3,088)	5,247 (6,293)	122 (114)	※
没後20年 星野道夫の旅 selection	H30.6.10~7.30	44	17,942	6,086	5,792	11,878	270	
里中満智子「愛」の テーゼ	H30.8.11~10.8	51	16,297	2,864	3,097	5,961	117	
堀田善衛-世界の 水平線を見つめて	H30.10.17~12.17	44	16,359	2,520	4,405	6,925	157	
北の命の物語展 倉本聰と点描画	H31.1.6~3.4	58	10,962	2,507	4,770	7,277	125	
家持発見 - 響き合う詩歌と絵画	H31.3.17~3.31 (H31.3.17~ R1.5.13)	13 (51)	3,648 (21,022)	576 (6,225)	466 (6,011)	1,042 (12,236)	80 (240)	※
常設展のみ		53	38,023		1,372	1,372	26	
常設展入れ替え (ライブラリーのみ)								
合 計		306	117,430	17,206	22,496	39,702	130	
休館日		59						

開館日数/308日うち 臨時開館 1日 (3月22日)

休館日数/59日

開館時間/9時30分から18時まで (観覧受付は17時30分まで)

休 館 日/火曜日 (祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始 (12月29日から1月3日)

※年度をまたぐ企画展については30年度分の実績 (上段) と会期全体の実績 (下段) を併記

(2)研修室の利用状況

年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
30年	4月	26	4	20	712	24	90	42	282
	5月	25	6	16	490	21	96	34	236
	6月	26	4	18	489	14	41	36	277
	7月	26	5	24	696	13	41	38	295
	8月	27	4	16	352	18	52	34	185
	9月	26	4	29	439	20	73	36	237
	10月	26	5	35	796	26	85	38	249
	11月	25	5	15	689	15	61	35	236
	12月	24	7	18	387	10	36	38	247
31年	1月	24	7	18	318	9	39	31	199
	2月	24	4	2	859	9	58	35	395
	3月	27	4	21	498	13	56	41	281
合 計		306	59	232	6,725	192	728	438	3119

年	月	研修室201		研修室202		和 室		合 計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
30年	4月	29	75	23	63	25	60	163	1,282
	5月	37	114	21	40	23	64	152	1,040
	6月	41	121	26	55	23	61	158	1,044
	7月	42	116	28	66	25	62	170	1,276
	8月	34	86	17	32	9	31	128	738
	9月	35	103	41	82	29	72	190	1,006
	10月	46	110	23	39	19	50	187	1,329
	11月	33	87	23	37	28	68	149	1,178
	12月	33	95	15	31	22	62	136	858
31年	1月	30	84	16	55	21	57	125	752
	2月	29	98	21	55	23	57	119	1,522
	3月	32	88	22	73	30	95	159	1,091
合 計		421	1,177	276	628	277	739	1,836	13,116

(3)年度別利用状況

区 分	開館日数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者 合 計	1 日 当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	306	108,138	13,839	16,260	30,099	98	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
平成30年度	306	104,208	22,402	22,172	44,574	146	1,836	13,116
合 計	2,059	792,750	128,346	152,856	281,202	137	11,555	93,757

2. 施設の概要



施設概要

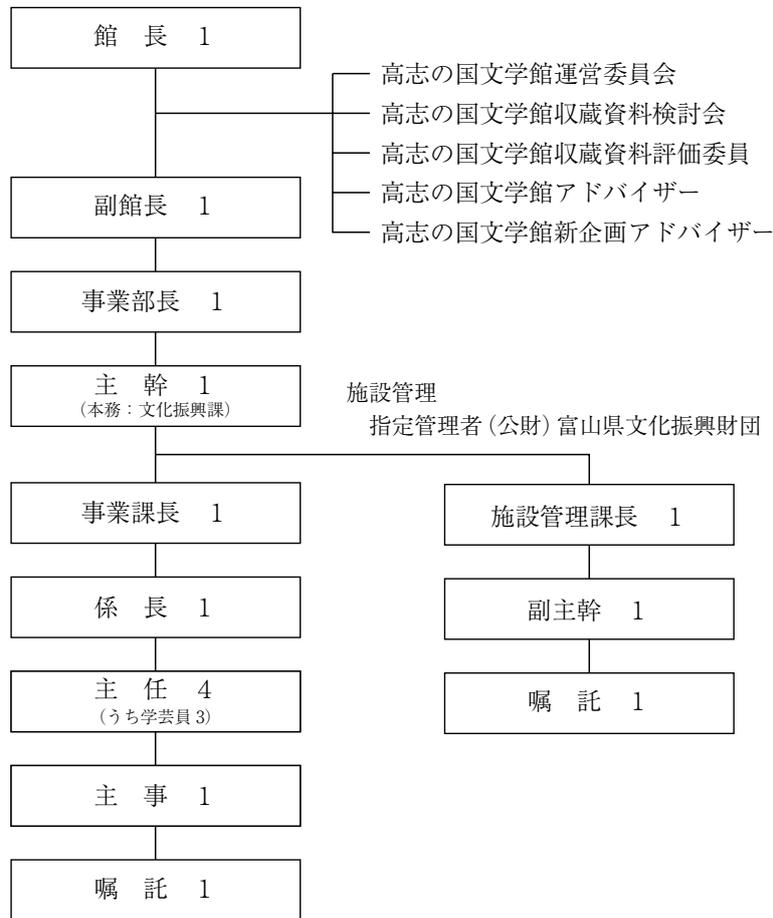
所在地	富山市舟橋南町 2 番22号
構造	RC、一部 SRC、S
規模	地上 2 階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷地	13,729㎡
設計	シーラクスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社 ほか
総工費	1,947,135,080円
工期	起工 平成23年 7 月 4 日 竣工 平成24年 7 月 3 日

受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年 6 月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年 5 月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年 1 月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年 4 月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
B S C 賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

3. 機構

平成31年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度 (公財)富山県文化振興財団
 平成27年度～平成31年度 (公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	中西進	
副館長	荻布佳子	
事業部長	生田美秋	
主幹	中村毅	本務 文化振興課主幹
事業課長	永原美智代	
副主幹	中田渉	兼務 文化振興課
主任	旦尾紘一	
主任	綿引香織	学芸員
主任	大川原竜一	学芸員
主任	小林加代子	学芸員
主事	中松奨	兼務 文化振興課
主事	海内顕弥	本務 文化振興課
嘱託	山田優子	
施設管理課長	広田英貴	
副主幹	長井秀年	
嘱託	魚屋美智乃	

4. 組織

平成31年3月31日現在

高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
荒木 義雄	富山県高等学校校長協会会長
上田 洋一	富山県歌人連盟会長
上野 誠	奈良大学文学部教授
梅田ひろ美	(株) ユニゾーン代表取締役会長
老月由美子	富山県小学校長会理事
大西 正起	日本青年会議所富山ブロック協議会長
加藤 淳	(一社) 富山県芸術文化協会会長
瀬川 信子	富山県PTA連合会副会長
瀬川 ゆき	世田谷文学館学芸部長
高木 繁雄	富山県商工会議所連合会会長 (株) 北陸銀行特別参与
立野 幸雄	射水市大島絵本館長
飛田 久子	富山県婦人会理事
中井 敏郎	富山商工会議所常議員 東亜薬品(株) 代表取締役社長
野村しのぶ	公募委員
マリ クリスティーヌ	富山大学客員特別研究員
山口 泰祐	富山県商工会議所青年部連合会長

高志の国文学館収蔵資料検討会委員

氏名	役職等	
委員	加藤 淳	(一社) 富山県芸術文化協会会長
	小谷 瑛輔	富山大学人文学部准教授
	中井 敏郎	富山商工会議所常議員 東亜薬品(株) 代表取締役社長
	久泉 迪雄	富山県歌人連盟顧問
	山崎 一穎	全国文学館協議会会長
専門委員	小林 忠	岡田美術館館長、学習院大学名誉教授、国際浮世絵学会会長
	寺島 恒世	武蔵野大学特任教授、国文学研究資料館名誉教授

高志の国文学館収蔵資料評価委員

氏名	役職等
安村 敏信	(一財) 北斎館 館長、元板橋区立美術館長
戸田 浩之	福井県立美術館主任学芸員
浅地 豊	森記念秋水美術館館長、富山県水墨美術館顧問
柳原 正樹	京都国立近代美術館長、とやま美術政策顧問

高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
篠田 正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄 [㊤]	漫画家

高志の国文学館新企画アドバイザー

氏名	役職等
太田麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
菓子 浩	ドラマプロデューサー
河合 隆	有識者
高成麻由子	在京テレビ局・海外事業部
本木 克英	映画監督
山内マリコ	作家

IV 資 料

沿革

年 月 日	事 項
平成24年 7月 6日	開館
7月 6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉—風土とこだまする家持の心」開催
7月15日	入館者1万人達成
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館
12月 8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代—小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道—」開催
平成25年 2月 3日	入館者10万人達成
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪—大自然に生きる母と子の物語—」開催
4月 7日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
5月26日	入館者15万人達成
7月 7日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
8月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	入館者20万人達成
10月18日	高円宮妃殿下ご来館
11月 3日	中西進館長 文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝—棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長 富山県特別荣誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会 開催
平成26年 3月20日	企画展「まんが家 藤子・F・不二雄のSF（すこし・ふしぎ）」開催
4月 6日	入館者25万人達成
4月26日	棟方志功未公開作品特別展示 開催
7月26日	企画展「風の盆 深奥の心をさぐる」開催
8月 4日	入館者30万人達成
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学—うつりゆく富山の歴史の中で—」開催
平成27年 1月 7日	ギャラリー展「『冷光文庫』展—富山におり立った「雪の女王」を訪ねて—」開催
1月28日	企画展「川の文学 美しきふるさと—富山の川をめぐる文学と美術の交響—」開催
3月13日	企画展「三禅定の旅—立山・白山・富士山をめぐる—」開催
5月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション 妖怪がひそむ富山の民話」開催
5月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明 挿絵原画展」開催
7月11日	企画展「あの日、青い空から—久世光彦の人間主義」開催
7月19日	入館者40万人達成
9月 9日	ギャラリー展「『海』物語 憧れ・神秘・畏怖—海づくり大会によせて—」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情—田中冬二へのいざない」開催
平成28年 1月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸—ミステリー文学でたどる—」開催
3月21日	企画展「夢二の旅—たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
6月 3日	ギャラリー展「富山映画展—スクリーンの中の人と風景—」開催
7月 3日	入館者50万人達成
7月 9日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎—九転十起の生涯」開催
平成29年 1月14日	企画展「知られざる作家の世界—書簡から直筆原稿、書画まで」開催
3月19日	企画展「官人 大伴家持—困難な時代を生きた良心」開催
5月29日	天皇皇后両陛下ご視察
6月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	入館者60万人達成
7月23日	企画展「おわらと林秋路—風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝—人間のあたたかさ、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二 音楽を描く」開催

年 月 日	事 項
平成30年 3月18日	企画展「歌人 大伴家持－現代と響き合う詩心」開催
5月14日	入館者70万人達成
6月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」開催
8月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」開催
10月17日	特別展「堀田善衛－世界の水平線を見つめて」開催
平成31年 1月6日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」開催
3月17日	企画展「家持発見－響き合う詩歌と絵画」開催

V 關係法令

高志の国文学館条例

平成23年 9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年 6月29日条例第38号

平成26年 3月26日条例第21号

平成28年 3月25日条例第22号

平成31年 3月15日条例第9号

平成30年 3月26日条例第19号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(位置)

第3条 文学館は、富山市に置く。

(事業)

第4条 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第5条 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する業務
- (3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務
- (4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務（休館日）

第7条 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）
- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）
- (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日
(平28条例22・一部改正)
(開館時間)

第8条 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後6時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・平28条例22・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

第9条 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

第10条 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

第11条 常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

第12条 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

第13条 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

第14条 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

第15条 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

第16条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第17条 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第18条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

(1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

(3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

(4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

第19条 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(平28条例22・一部改正)

第21条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

- 2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

(平24条例38・平26条例21・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年7月6日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。)」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。)」とする。

附 則 (平成26年条例第21号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第8条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成28年条例第22号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年条例第19号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年条例第9号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に第9条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第9条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・平31条例9・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,200円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	14,420円	3,610円
	2分の1使用	7,170円	1,790円
研修室2		4,430円	880円
研修室3		3,960円	780円
研修室4		1,420円	290円
研修室5		1,420円	290円
和室		1,700円	340円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。

2 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加、平31条例9・一部改正)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	330円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年 7月 5日

富山県規則第43号

改正 平成28年 3月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入室時間)

第2条 高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前9時30分から午後5時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平28規則32・一部改正)

(特別観覧の承認申請)

第3条 条例第12条第1項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第4条第1号に規定する文学資料をいう。第6条及び第9条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の7日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第1号）を知事に提出するものとする。

(平28規則32・一部改正)

(専用使用の承認申請)

第4条 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第2号）を指定管理者に提出するものとする。

2 前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第1項において「専用使用日」という。）の3月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

(専用使用の変更)

第5条 条例第13条第1項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第8条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

2 専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超過して文学館の施設を使用する必要があるとき

は、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

(平28規則32・一部改正)

(観覧料の減免)

第6条 条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるところとする。

- (1) 条例別表第1の1の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合 観覧料の全額
- (2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者1人につき1人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (4) 療育手帳制度について（昭和48年9月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合 観覧料の全額
- (6) 70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合 常設展示観覧料の全額
- (7) 前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合 知事が必要と認める額

2 前項第1号又は第2号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第3号）を知事に提出することにより、同項第3号から第5号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第6号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足る書類の確認により、同項第7号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

(平28規則32・追加)

(駐車場を使用できる自動車)

第7条 文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ5メートル以下、幅2メートル以下、高さ2.2メートル以下のものに限る。）とする。

（平28規則32・旧第6条繰下）

（原状回復及び点検）

第8条 専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（平28規則32・旧第7条繰下）

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第9条 文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（平28規則32・旧第8条繰下）

（高志の国文学館運営委員会）

第10条 高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（平28規則32・旧第9条繰下）

（細則）

第11条 この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

（平28規則32・旧第10条繰下）

附 則

この規則は、平成24年7月6日から施行する。

附 則（平成28年規則第32号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

様式第2号（第4条関係）

様式第2号(第4条関係)
高志の国文学館施設管理規程施行細則

第 章 第 節

第 条 第 項

施設等の名称	所在地
用途	管理区分

ここに示す、施設等の使用に際しては、施設等の管理者に申し出て点検を受ける。

使用区分	使用区分	使用期間	開始日時	終了日時	使用料
第1区分	第1区分	第1区分	第1区分	第1区分	第1区分
第2区分	第2区分	第2区分	第2区分	第2区分	第2区分
第3区分	第3区分	第3区分	第3区分	第3区分	第3区分

使用料の計算、計算書の提出

様式第1号（第3条関係）

様式第3号（第6条関係）

様式第1号(第3条関係)
高志の国文学館文学資料管理規程施行細則

第 章 第 節

第 条 第 項

ここに示す、資料の管理に際しては、資料の管理者に申し出て点検を受ける。

資料の種類	管理区分
資料の名称	管理区分

様式第3号(第6条関係)
高志の国文学館施設管理規程施行細則

第 章 第 節

第 条 第 項

ここに示す、施設等の使用に際しては、施設等の管理者に申し出て点検を受ける。

施設等の名称	所在地
用途	管理区分

ここに示す、施設等の使用に際しては、施設等の管理者に申し出て点検を受ける。

使用区分	使用区分	使用期間	開始日時	終了日時	使用料
第1区分	第1区分	第1区分	第1区分	第1区分	第1区分
第2区分	第2区分	第2区分	第2区分	第2区分	第2区分
第3区分	第3区分	第3区分	第3区分	第3区分	第3区分

使用料の計算、計算書の提出

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年7月5日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程
(趣旨)

第1条 この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

第2条 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

第3条 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

(休憩時間)

第4条 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年7月5日
富山県告示第317号

改正 平成26年3月26日告示第148号
平成31年3月29日告示第169号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
ビデオプロジェクター (スクリーン付)	1式	2,980円
拡声装置(マイク付)	1式	2,540円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄
平成26年4月1日から施行する。

改正文（平成31年告示第169号）抄
平成31年10月1日から施行する。

平成30年度 高志の国文学館 年報

令和2年2月28日発行

編集 高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館

※許可なく転載、複製することを禁じます。